

# 営農情報

第2号 平成25年7月4日発行

( 水 稻 )

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

田植えは6月22日を中心に行われました。今年は苗が徒長気味のところが多く、活着が遅れているほ場もあります。浅水管理を心がけて下さい。

## 1 水管理（ジャンボタニシ対策）

中干しまでの水管理は、分けつ促進とジャンボタニシの食害防止のため、浅水での間断かん水を基本とします。

防除を行う場合は、スクミノンを10aあたり2～4kg、タニシの多いところを狙って散布します。ジャンボタニシは、田植直後～20日後頃に最も激しく食害します。その後は、発生する雑草を食べてくれるという利点もあるので、上手に付き合しましょう。

また、麦わらすき込み田では、ガス害が発生する場合があります。苗が活着する様子がなく、葉が黄色くなっている、ほ場に入ると泡がブクブクたち、ドブのようなにおいがする場合は、ガス害の可能性が高いです。その場合、落水し田面を軽く干して、ガス抜きを行います。

## 2 除草剤

○雨により初期除草剤を散布できなかったり、散布後に田んぼの水があふれたりして、雑草が残っている場合は、中後期除草剤を使用しましょう。

薬剤名	使用時期 の目安	散布量 10aあたり	備考
ワイドアタックSC (液剤)	移植後 20～35日	1000ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水して雑草にかかるよう散布
クリンチャー 1キロ粒剤	移植後 25～35日	1.5kg	○ヒエ5.0葉期までに水をためて散布 ○キシュウスズメノヒエに適用あり
ハイカット 1キロ粒剤	移植後15日 ～収穫60日 前まで	1kg	○ヒエ3.5葉期までに水をためて散布 ○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○収穫前日数に注意

## 3 中干し

- (1) 1株あたりの茎数が20本になり次第、中干しに入ります。目安は田植の1ヶ月後となります。中干しの程度は、足跡が軽く付くまで行います。白く乾かないようにしましょう。
- (2) 中干し後は、間断かん水を行います。
- (3) その後穂ばらみ～穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので水を保ちます。
- (4) 水が豊富にある場合は、高温障害回避のため、出穂後2週間程度かけ流しを行い、ほ場内の温度を下げます。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**